

総合型選抜拡充の課題

入試設計のコツ、学力担保、高校広報は？



志望度の高い入学者の早期確保に向け、国公私立問わず拡充が続く総合型選抜。設計と運用、さらに広報の要点をQ&A形式で解説する。

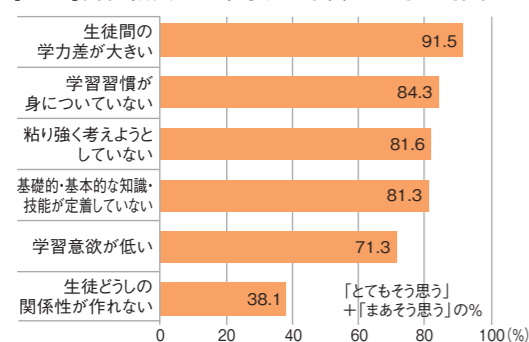
取材・文 / 見山雄介

【図表3】2025年度入試で新設・拡充される総合型選抜の例

大学名	募集学部・学科と募集人数	選抜内容
福島大学	共生システム理工学類：32名 (A：一般枠24名 B：理系教育女性人材育成枠8名)	〔総合型選抜〕 出願資格は「英語外部検定のスコア」「科学に関する探学的活動によるコンテスト参加等」「評定平均と高校での指定教科の履修いずれか選択。1次選抜：志願理由書などの出願書類を総合的に評価 2次選抜：模擬授業を聞いた課題レポート、面接 ※合格者には入学前教育(共通テスト「外国語」「数学」「理科」の受験)等を実施
宇都宮大学	共同教育学部・全分野	〔総合型選抜A(一般)〕 調査書の学習成績概評B以上、数学分野は数学の学習成績の状況が4.3以上の者。出願書類(入学志願票、調査書、志望理由書のほか、分野によっては本人記載の書類等必要<例：教育分野「教育に関するレポート」小・中学教員の仕事を調べ経験者1名に話を聞きわかったことをまとめる>)、各分野で課す選抜方法(面接、講義レポート、プレゼンテーションなど) ※共通テストは課さない 【専願】
	工学部機械・情報電子系	〔総合型選抜A(一般)〕 調査書の学習成績概評B以上、数Ⅲ及び物理履修者(見込み含む)。出願書類(入学志願票、調査書、自己推薦書<修学意欲+理数系科目に関する取り組み等を含む内容>、プレゼンテーション資料<5分程度でプレゼン可能な内容。フォーマットあり>)、プレゼンテーション(自身が取り組んだ理数系科目に関する課題発表、プレゼンの質疑応答と数学・物理の基礎学力確認の口頭試問)、個人面接 ※共通テストは課さない 【専願】
東京都立大学	システムデザイン学部 情報科学科：5名	〔情報I・II利用入試〕 情報I、情報IIの評定が4以上の者対象。1次選抜：書類選考(調査書、志望理由書) 2次選抜：面接(口頭試問含む)、共通テストの成績(数I・A・Ⅱ・B・C、物理、英語、情報I) 【専願】
	理学院：一般枠8名、女子枠15名 ※一般枠と女子枠の併願不可	〔総合型選抜〕 1次選抜：共通テスト、書類審査 2次選抜：総合問題(女子枠は総合問題の一部として共通テストの「物理」「化学」の得点をそれぞれ30点満点と換算して利用)、書類審査 【専願】
東京科学大学 理工学系*3 ※現・東京工業大学	工学院：一般枠17名、女子枠70名 ※一般枠と女子枠の併願不可	〔総合型選抜〕 1次選抜：共通テスト、書類審査 2次選抜：総合問題、書類審査、共通テストの得点(女子枠のみ)
奈良県立大学	地域創造学部：5名	〔総合型選抜〕 課題レポート(2000字程度)を提出し、本学が設定する評価基準で評価を受け、基準を満たした者に出願資格を付与。1次選考：志望理由書、既出の課題レポート、調査書等 2次選考：1人40分程度の個人面接(プレゼンテーション<発表>、質疑応答) 3次選考：共通テスト3科目
名桜大学	人間健康学部健康情報学科：10名	〔総合型選抜〕 書類審査(エントリーシート、調査書<学習成績の状況不問>、実績報告書)、面接(個人方式)、小論文 【専願】
早稲田大学	スポーツ科学部：若干名	〔スポーツサポート歴入試〕 スポーツチームの競技活動を一定期間定期的にサポートした経験を持つ者対象。1次選抜：書類審査(スポーツサポート歴調査書、スポーツサポート歴証明書類<例：活動日誌、新聞・雑誌記事>)、課題レポート、学校長が作成する調査書等) 2次選抜：口述試験(プレゼンテーションおよび関連質疑) 最終選抜：共通テスト 【併願可】
東洋大学	経済学部第1部経済学科：5名	〔自己推薦入試(学習証明型)〕 オンラインによる事前学習プログラム(数学等)を受講して事前適性検査を受検し(プログラムは受講しなくても受検可能)、学科の定めた基準を満たしていることを証明したうえで出願後、面接、筆記試験等で選抜 ※合格後はオンラインによる入学前教育プログラム(数学等)を受講 【専願】 ※同時に学校推薦型選抜でも併願可能な「基礎学力テスト型」を全学部で導入。募集人員は600名弱
東京理科大学	昼間学部	〔総合型選抜(英語資格検定+特定教科評価)〕 高等学校(中等教育学校)最終学年第1学期または前期までの数学および理科(経営学部は数学および国語)の学習成績の状況がそれぞれ4.0以上、指定の科目を履修し、かつ外部英語資格・検定試験の所定のスコアを有している者。書類審査、英語の資格・検定試験の成績、小論文、面接、口頭試問 【専願】 ※既存の総合型選抜(女子)の日程・選考方法は「総合型選抜(英語資格検定+特定教科評価)」と同様に変更
	理学部第二部	〔総合型選抜(理学部第二部)〕 書類審査、小論文、面接、口頭試問 【専願】 ※2022年3月以降に卒業した者が出願可能
芝浦工業大学	工学部全課程全コース(先進国際課程を除く)：3~5名程度/コース	〔工学部総合型選抜〕 1次：書類審査(調査書、自己推薦動画) 2次：筆記試験(小論文)、面接試験
玉川大学	全学部	〔総合型入学審査Ⅲ期〕 これまで3月に実施していた一般選抜の後期日程に代わり実施。エッセイ、書類、面接で選考 【併願可】
東京家政学院大学 ※2025年度より共学化予定	全学部	〔アサーティブ入試〕 「学力の3要素」を一人ひとりが身につけられるように支援する教育プログラム「自主学習システムMANABOSS(知識・技能)・アサーティブサポート(思考力・判断力・表現力)・個別面談(主体性・多様性・協働性)」を活用し、そのプログラムの成果検証結果(修了認定書)を含む出願書類により総合判定
聖心女子大学	現代教養学部：40名	〔総合型選抜(探究プレゼンテーション方式)〕 高校の授業や課外活動、個人的に行った探究活動などの成果を評価。「探究」の成果を大学での学修にどのように活かしているかを審査。1次：書類審査(エントリーシート<1>志望動機、ii どのような場・方法で「探究」したか、iii 今回の「探究」の経験をどのように活かしていきたいか)、プレゼン資料<出力紙>、調査書 2次：面接(プレゼンと質疑応答) ※探究活動の具体例、評価のポイントはHPで公表 【専願】
立命館大学	経済学部：12名、スポーツ健康科学部：10名程度、食マネジメント学部：13名程度、薬学部：6名。加えて政策科学部、総合心理理学部、情報理工学部、生命科学部を新規対象とする	〔AO選抜〕 UNITE Program(学部指定単元AI学習プログラム)を活用。入学後の各学部の学びに特に重要な基礎学力となる教科の指定単元をAIを活用した学習教材で修得し、修得認定試験に全て合格・修了することが出願要件。プログラム自体の出願無料、学習期間中は修得認定試験に不合格になっても何回もチャレンジ可能。AO選抜に出願後は、面接やプレゼンなど、各学部により選考。入学予定者には継続して入学前教育実施。2025年度からは対象学部・教科拡大。新たに「情報」を活用
久留米工業大学	工学部全学科：若干名	総合型選抜「課題発見・解決型高大接続」 2024年度から本学が実施する「課題発見・解決型高大接続教育プログラム」(2024年は8月に3日間、AIと工学をテーマにコース別に実施)の修了者対象。高大接続教育プログラムを通して志願者が培った課題発見・解決に関する意欲及び能力・資質に重点を置き、それらを面接やプレゼンテーションで評価

*早期に発表した大学のうち、特徴ある入試について、公表情報を基にBetween編集部にてまとめ

【図表4】高校教員が思う学力に関する生徒の様子



*ベネッセ教育総合研究所「小中高校の学習指導に関する調査」調査時期：2023年8月末～9月中旬 調査対象：全国の公立の小学校・中学校および国公私立の高等学校の教員 有効回収数(高校)：3,244

【図表1】総合型選抜と学校推薦型選抜の違い

	総合型選抜	学校推薦型選抜
どんな入試	詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定する入試方法	出身高等学校長の推薦に基づき、調査書を主な資料としつつ、以下の点に留意して評価・判定する入試方法
選抜のポイント	①入学志願者本人の記載する資料*1を積極的に活用する。 ②入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する。高度な専門知識等が必要な職業分野に求められる人材養成を目的とする学部・学科等においては、当該職業分野を目指すことに関する入学志願者の意欲・適性等を特に重視した評価・判定に留意。 ③大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等も適切に評価するため、調査書等の出願書類だけではなく、「見直しに係る予告」で示した評価方法等*2又は大学入学共通テストのうち少なくともいずれか一つを必ず活用する。	①大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等も適切に評価するため、高等学校の学習成績の状況など調査書・推薦書等の出願書類だけではなく、「見直しに係る予告」で示した評価方法等又は大学入学共通テストのうち少なくともいずれか一つを必ず活用する。 ②推薦書の中に、入学志願者本人の学習歴や活動歴を踏まえた①に示す三つの要素に関する評価や、生徒の努力を要する点などその後の指導において特に配慮を要するものがあればその内容について記載を求める。
スケジュール *2024年度入試の場合	出願：2023年9月1日以降 試験日：学力検査を課す場合は2024年2月1日～3月25日 学力試験を課さない場合は上記期日によることを要しない 判定結果発表：2023年11月1日以降	2023年11月1日以降 学力検査を課す場合は2024年2月1日～3月25日 学力試験を課さない場合は上記期日によることを要しない 2023年12月1日以降(一般選抜の試験期日の10日前まで)
募集人員	上限なし	附属高等学校長からの推薦に係るものも含め、学部等募集単位ごとの入学定員の5割を超えない範囲
入試情報の取扱い	試験問題や解答は原則公表。受験者本人への成績開示や試験の評価・判定方法も可能な限り情報開示に努める	
合否判定の方法や基準	基準を明確に定め募集要項等に公表	

*文部科学省「令和6年度大学入学者選抜実施要項」(2023年)を基にBetween編集部で作成

【図表2】総合型選抜拡充のメリットとデメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ▶志望度が高く自学にマッチした学生の確保 ▶志願者獲得の機会拡大 ▶多面的な観点から評価することができる ▶受験を通じて受験生のキャリア意識を醸成できる ▶高大でシムレスな人材育成をしやすい ▶多様な学生を確保しやすい ▶自学に興味のある受験生にチャンスを与えやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ▶他大学と差別化された魅力的な入試にするための、準備や企画に労力がかかる ▶入試の実務面の組織体制づくりや、その実施に労力がかかる ▶明確な人材像とそれを選抜できる評価軸がないと、自学とミスマッチな学生が増える ▶早期に合格が決まるため、大学入学までの学びが途切れやすい ▶学力の担保 ▶量的な確保は難しい ▶大学自ら発信を強化しないと認知してもらえない

*大学への取材を基にBetween編集部にてまとめ

Q：総合型選抜拡充のメリット・デメリットは？

A 自学に合う学生を取りやすいが、かかる労力大きい。

学校長の推薦が必要で入学定員の5割という上限がある学校推薦型に比べ、総合型は設計の自由度が高く募集人員に上限がない【図表1】。国公立大学でも拡大傾向にあり、24年度入試では、学校推薦型の志願者数が初めて総合型を下回った。中でも、中堅の私立大学は、これまで指定校推薦で一定の学生数を確保していたが、近年、指定校枠を広げる偏差値上位大学が増えている影響で、指定校での学生確保が困難になってきた事情もある。「18歳人口減により入試の選抜性が薄まり、高校と大学が連携しながら生徒・学生の育成を担う必要性が高まっている。結果として総合型選抜と結びつけた入試設計や工夫に向かわざるを得ないと考えている」(桜美林大学)。

取材を基に、総合型拡充のメリットとデメリットをあらためて

整理した【図表2】。メリットは、大学、受験生の双方が入学後の学びへの適性を把握できる点を挙げられる大学が多かった。デメリットの声でめだつたのは、労力だ。事前プログラムや入試の設計、運営するにあたっての人的、資金的な負荷がかかる点が壁となっている。

Q：25年度入試における各大学の動きは？

A 新設・拡充が続く【図表3】。

宇都宮大学は共同教育学部で新たに実施。教育人間科学系の教育分野で小中教員へのインタビューをレポートにまとめさせるなど、受験生が将来像を描くための課題を入試に採り入れる。奈良県立大学は初めて総合型を導入。2次選考で40分程度と時間をかけた面接を行う。就職試験で広く行われている自己PR動画を採り入れたのは芝浦工業大学。事前提出「書類」の一部として課す。東京家政学院大学は、自らが大学で学ぶ目的や意欲を持てるように一人ひとりに

【図表5】 代表的な総合型選抜の今

過去、小誌の記事や、文部科学省の入試の好事例で紹介された総合型選抜のその後の変化について、各大学に聞いた。

大学・入試名	Before	After
桜美林大学 「探究入試Spiral」	<p>「探究」の学びや経験によって成長した受験生に大学生になってからもさらに多くの探究を重ね、卒業後に人や社会の課題解決に寄与する人材を送り出すための入試</p> <p>【開始年】2022年度入試 【対象学群】リベラルアーツ、ビジネスマネジメント、健康福祉 【募集人員や入試結果】募集人員20名(リベラルアーツ)、15名(ビジネスマネジメント)、若干名(健康福祉)／志願者数18人／入学者数10人</p> <p>【選抜方法】プレゼンテーション型 1次選抜：書類審査(探究学習報告書など)／2次選抜：面接(探究学習に関するプレゼン<対面／オンライン>、学群指定の課題図書の内容理解度含む)</p>	<p>【2024年度入試結果】募集人員85名程度(リベラルアーツ20名程度、グローバル・コミュニケーション10名程度、ビジネスマネジメント15名程度、健康福祉10名程度、芸術文化15名程度、教育探究科10名程度、航空・マネジメント3コース5名程度)／志願者数57人／入学者数42人</p> <p>【入試の主な変更点】プレゼンテーション型で対象学群を拡大。また、探究プログラム「ディスカバ！」で優秀な成績を取めた生徒を対象とした「ディスカバ！育成型」や、本学認定のコンテスト等で優秀な成績を取めた生徒対象の「コンテスト活用型」新設</p> <p>【志願者や入学者の特徴】あらかじめ秀でた探究の実績を持った高校生が志願するだけでなく、「ディスカバ！」を通して探究力や志望度を磨いた層が、志願・入学するように変化</p>
高崎商科大学 「探究・ブレインストーミング入試」	<p>ブレストで主体性・多様性・協働性を評価する入試</p> <p>【開始年】2021年度入試 【対象学部】商・経営学科 【募集人員や入試結果】募集人員10名／志願者数4人(専願0人、併願4人)／入学者数0人</p> <p>【選抜方法】エントリーシート(志望理由含む)提出後出願。ブレインストーミングプログラム(50分間)、ペーパーテスト(読解力と数的理解を測る問題、10分間)、集団面接(30分間)により総合的に判定</p>	<p>【2024年度入試結果】募集人員10名／志願者数5人(専願0、併願5人)／入学者数3人</p> <p>【入試の主な変更点】基礎学力確認に重点を置くため2段階選抜へ。1次で書類選考とペーパーテスト、2次は従来のブレストプログラム</p> <p>【志願者や入学者の特徴】高校内外の活動に積極的ななど、主体性が高い。自ら発言できる能力が高く、他者の意見を引き出すこともできる志願者が多い。国公立大学との併願者もいる。他大学に進学決定時に報告する受験生がいるのも、育成型入試の特徴</p>
東京都市大学 「学際探究入試」 (理工系タイプ2)	<p>次世代のリーダーを育成する「ひらめき」プログラム※1に接続する入試</p> <p>【開始年】2022年度入試 【対象学部】理工学部3学科(機械工・機械システム工・電気電子通信工) 【募集人員や入試結果】募集人員5名(学部全体の約0.8%) ※タイプ1・2及び「総合型選抜(2段階選抜制)」の合計／志願者数46人(実志願者18人)／入学者数12人</p> <p>【選抜方法】出願要件：英語資格・検定試験のスコア 選抜：調査書、志望理由書、探究総合問題(タイプ1)※2、全て英語による面接(タイプ2)で判定</p> <p>※1 正式名称は「ひらめき・ことものくらし・ひと」づくりプログラム。2025年度からはデザイン・データ科学部を除き、全学部で導入(予定)</p> <p>※2 タイプ1は自動的に3学科併願となり、入学手続き時に学科を選択する</p>	<p>【2024年度入試結果】対象学部：理工学部全7学科 募集人員18名／志願者数610人(実志願者数88人)／入学者数52人</p> <p>【入試の主な変更点】新たなタイプとして理工学部女子枠の新設(タイプ2)。小論文、面接を実施</p> <p>【志願者や入学者の特徴】2023年度入試と比較すると、志願者は実志願者数でも大幅に増加。中でも理工系女子枠を設定した影響もあり、女性が5.4倍増と大きく増加、入学者も合計2.7倍と増加</p> <p>※タイプ1および2は自動的に7学科併願となり、入学手続き時に学科を選択する</p>
産業能率大学 「キャリア教育接続方式」	<p>自己の将来構想に基づく課題解決プランをプレゼン課題とし、課題設定・情報収集・分析・仮説形成・課題解決・表現という探究プロセスを経験することで、コンピテンシーと自己肯定感の醸成を図ろうとする入試</p> <p>【開始年】2007年度入試 【対象学部】経営 【募集人員や入試結果】募集人員10名(学部全体の約2.8%)／志願者数3人／入学者数3人</p> <p>【選抜方法】出願要件：高校でのキャリア教育による成果物(1年生～3年生)の提出必須。出願資格は、総合高校、総合学科のみ。普通科は、課題研究の成果物があれば、出願可能 選抜：「自己のキャリア構想」に基づく課題解決プランのプレゼンテーション(10分程度)、プレゼンテーション内容と自己記述書に基づく面接(30分程度)</p>	<p>【2024年度入試結果】募集人員25名／志願者数111人／入学者数69人</p> <p>【入試の主な変更点】出願資格：2009年度入試より「キャリア開発プログラム(3日間)」(全日程参加必須、プログラム成果物「10年後の将来構想」を提出)を受講すれば総合学科以外も出願可能に 対象学部、学科：2014年度入試より経営学部マーケティング学科、2024年度入試より情報マネジメント学部現代マネジメント学科にて導入 出願書類：2020年度入試より、高校で取り組んだ探究学習や課題研究とその大学での活用を記述する課題追加</p> <p>【志願者や入学者の特徴】自己を変革したい、社会に出るまでもっと成長したい思いを共通に持ち、それが周囲の学生に強く影響を与えている</p>
関西学院大学 「探究評価型入学試験」	<p>探究活動のプロセスや成果物を多面的・総合的に評価する入試</p> <p>【開始年】2016年度入試</p> <p>■SGH※対象校 【対象学部】全学部 【募集人員】若干名 【入試結果】志願者数40人／合格者数26人</p> <p>【選抜方法】1次審査：書類審査 2次審査：面接やプレゼンテーション等</p> <p>■SSH※対象校 【対象学部】理工学部 【募集人員】30名 【入試結果】志願者数8人／合格者数8人</p> <p>【選抜方法】1次審査：書類審査／2次審査：面接やプレゼンテーション等</p> <p>※SGH…スーパーグローバルハイスクール、SSH…スーパーサイエンスハイスクール</p>	<p>【2024年度入試結果】募集人員45名+若干名(学部により異なる)／志願者数146人／合格者数78人／入学者数76人</p> <p>【入試の主な変更点】探究活動の広がりを受け、出願資格をSGH・SSH指定校から全ての高校に拡大している。また、募集人員も増加させ、門戸を広げている。</p> <p>【志願者や入学者の特徴】探究活動を3つのタイプ(A：実験や質問紙調査等、B：他者との交流や協働、C：特定のテーマに関する学術的考察)に分けて募集しているため、さまざまなタイプの探究活動を行った志願者が集まる</p>

*Betweenの過去の記事、文部科学省「令和3/4年度大学入学者選抜における好事例集」(2022/2023年)、大学の公表情報や取材を基にBetween編集部にてまとめ

大学・入試名	Before	After
小樽商科大学 「グローバル総合入試」 ー英語で自己表現ができることを重視した入試ー	<p>「北海道経済の活性化に資するグローバル人材」の育成のために新設した主専攻プログラム「グローバルコース」の学生選抜が目的</p> <p>【開始年】2021年度入試 【対象学部】商 【募集人員や入試結果】募集人員20名(学部全体の約4%、一般枠15名、理系枠5名)／志願者数43人／入学者数19人</p> <p>【選抜方法】1次選抜：英語で作成した志望理由書や学修計画書、および民間の英語資格・検定試験の成績等を総合的に審査 2次選抜：英語を主体としたグループディスカッション、口頭試問</p>	<p>【2024年度入試結果】募集人員20名(学部全体の約4%、一般枠15名、理系枠5名)／志願者数36人／入学者数15人</p> <p>【志願者や入学者の特徴】志願者はボランティア活動等に積極的で、自発的に行動できる者が多く、特に英語による表現力やコミュニケーション能力に優れている</p>
宮城大学 「総合型選抜」 ー高校から大学への「架け橋」となる入試ー	<p>高校等との「架け橋」となる入試</p> <p>【開始年】2017年度入試 【対象学群】看護、事業構想、食産業 【募集人員や入試結果】募集人員48名(学群全体の約11%)／志願者数198人／入学者数65人(2021年度入試)</p> <p>【選抜方法】第1次選考：レクチャーを受講、レクチャーの内容に関するレポート(設問形式)を作成。レクチャーレポートを評価した成績、自己申告書等で総合的に判定 第2次選考：1日目、レクチャーを受講し、レクチャーに関連するテーマについて、少人数のグループワークを行い、ふりかえりレポート(設問形式)を作成。2日目、面接。2日間の活動(レクチャー、グループワーク、ふりかえりレポート、面接)を評価した成績、自己申告書等の出願書類の内容で総合的に判定</p>	<p>【2024年度入試結果】募集人員48名／志願者数195人／入学者数60人</p> <p>【入試の主な変更点】なし</p> <p>【志願者や入学者の特徴】これまでの受け入れ状況では、他選抜区分で入学した学生と比較し、レジリエンス(感情の制御、立ち直りの速さ、状況に応じ冷静に対応する力)、コラボレーション(相手の立場に立とうとする姿勢、他者と関わろうとする積極性)、リーダーシップ(自ら先頭立って進める力、未知の物に挑戦する力、粘り強くなり抜く力)について、より高い特性があることを確認。平成29年度の導入以来、「総合型選抜(旧AO入試)」で入学した複数の学生が、学会・コンベンション・コンテストにおいて受賞している</p>
金沢大学 「KUGS特別入試」 ー知識基盤社会の中核的リーダー育成を実現する高大接続プログラムー	<p>入学までに自学の学びに不可欠な能力・資質および意欲の成長を促進する入試</p> <p>【開始年】2021年度入試 【対象学域】全学域 【募集人員や入試結果】募集人員172名(学域全体の約10%)／志願者数156人／入学者数103人</p> <p>【選抜方法】出願要件：「KUGS(金沢大学<グローバル>スタンダード)高大接続プログラム」を受講し、課題レポートが、評価基準を満たすこと。口述試験や小論文、総合問題等により判定</p>	<p>【2024年度入試結果】募集人員238名+若干名／志願者数266人／入学者数157人</p> <p>【入試の主な変更点】デジタル人材選抜の追加、大学入学共通テストにおける英語外部試験のスコアの提出可(一部学類)、観光デザイン学類「特別枠」(地域枠)、医学類「特別枠」(地元育成枠)の追加</p> <p>【志願者や入学者の特徴】志願者の能力・資質・意欲を多面的・総合的に評価し、受験資格としてKUGS高大接続プログラムやグローバルサイエンスキャンパス等に取り組むことを課し、入試では口述試験を重視するため、入学者は早期に本学を第1志望とし、課題に主体的に取り組み、入学後も授業の履修やさまざまな活動に主体的・積極的</p>
島根大学 「へるん入試」 ー「学びのタネ」を大学での学びに繋げる育成型入試ー	<p>「学びのタネ」(知的好奇心、探究心等)、高校までに育んだ探究心や将来の学びの可能性を重視した入試</p> <p>【開始年】2021年度入試 【対象学部】法文、教育、総合理工、生物資源科学 【募集人員や入試結果】募集人員254名(学部全体の22%)／志願者数365人／入学者数220人</p> <p>【選抜方法】調査書、クローズアップシート(最も力を入れて取り組んだ高校の活動)により総合的に判定したうえで、読解・表現力試験、「学びのタネ」を記述した志望理由書を用いた面接等で評価</p>	<p>【2024年度入試結果】募集人員306名／志願者数479人／入学者数295人</p> <p>【入試の主な変更点】人間科学部及び材料エネルギー学部へ拡充、募集人員の拡充</p> <p>【志願者や入学者の特徴】「へるん入試」で入学した学生は、入学への満足度が高く、退学率や休学率が低い。成績(総修得単位数とGPA)は、一般選抜の学生と大きな差はない。受験理由は、へるん入試が「高校生活を評価」「学びのタネ(知的的好奇心・探究心等)」を評価する入試であるため、とする者が多い</p>
奈良女子大学 「探究力入試「Q」」	<p>自分で問いを立て、それを解き明かす、高校の学びや探究的な問いの継続性を重視した入試</p> <p>【開始年】2021年度入試 【対象学部】全学部(文、理、生活環境、工)</p> <p>【募集人員や入試結果】募集人員12名以内(文)、10名以内(理)、9名以内(生活環境)、15名以内(工)(全学部の約10%)／志願者数149人／入学者数7人(文)、7人(理)、4人(生活環境)、11人(工)</p> <p>【選抜方法】学科により異なる。<例>(文)1次選抜：提出書類(調査書、テーマに関する志望理由書・志願者評価書)により総合的に判定 2次選抜：指定図書等に関する小論文、口述試験(受験生が提出した課題レポート等についての質疑応答)、(理-数物)1次選抜：提出書類(調査書、数学もしくは物理学に関する作文またはレポート)により総合的に判定 2次選抜：数学もしくは物理学に関する総合的な口述試験、(生活環境-食)1次選抜：提出書類(調査書、学習研究計画書、各種技能または入賞等のエビデンス)により総合的に判定 2次選抜：科学的な内容の文書(英語を含む場合あり)、実験データ等を読み、小論文作成、プレゼン及び質疑応答、(工)Q2型(スクエア)／1次選抜：提出書類(調査書、志望理由書)により総合的に判定 2次選抜：データや資料の読み取り、レポート作成及びディスカッションなど</p>	<p>【2024年度入試結果】募集人員12名以内(文)、10名以内(理)、9名以内(生活環境)、15名以内(工)／志願者数149人／入学者数7人(文)、7人(理)、4人(生活環境)、11人(工)</p> <p>【入試の主な変更点】なし</p>

成果の出る総合型選抜のコツ①

入学者の成長を「面」と「線」で追い、入試の特性を把握

姿勢・態度に優れ、入学後に伸びる総合型選抜の入学者

思考力や姿勢・態度を測るアセスメント「GPS-Academic」の21万人以上の受検者データから、総合型入学者の特徴を分析しました。思考力を入試区分別に見ると、総合型は一般選抜より低いスコアです。しかし、経年で見ると思考力上位層の割合は年々伸びて、一般選抜との差を縮めています。思考力の高い生徒が総合型を選ぶようになった可能性があります。また、入学後の思考力のスコアは1年次から3年次にかけて全入試区分で増加していますが、増加率が最も高いのが総合型【図表7】。姿勢・態度については、レジリエンス*2が一般入試とほぼ同等、リーダーシップとコラボレーション*3は一般入試より上位層の割合が高いという結果でした。これらの結果から、総合型入学者の「学びに対する姿勢や態度が優れている」「思考力の成長ポテンシャルが高い」という特徴が見えてきます。入学時の教科学力のみを「いい学生」「いい入試」の判断基準にするのではなく、教科学力以外の多様な能力＝「面」や、入学後の変化＝「線」にも注目したほうが、自学の入試の検証や改善につなげることができるのではないかと考えます。

期待に応える教育があってこそ、大学満足度が高まる

気になるデータもあります。入学後の自学へのイメージを聞くと、

総合型は、「よくなった」も多いものの、「悪くなった」の回答比率が全入試区分で最も高いです。また、成長を「強く実感する」割合も、一般よりは高いものの学校推薦型よりは低い。ここから浮かび上がるのは、期待して入学し、入学後にがっかりしている総合型入学者の姿です。彼らは高校時代に探究活動や大学の学び体験などを通じて、入学後の理想を鮮明に言語化している分、期待とのギャップも強く感じやすいのでしょう。したがって、総合型選抜をよりよいものにするには、入試の種類や内容に手を加える入試改善のほかに、入学後の学びを期待に沿うものに変える教育改革も必要だと言えます。どのような教育を用意すべきか。学生生活で成長を「強く実感」した学生の特徴を入試区分別に分析したのが【図表8】です。総合型入学者の成長実感を高める要素は、カリキュラムの充実と、卒業後につながる学びと動機付けの提供のようです。

一方、一般選抜入学者の成長実感を高める要素は、それとは別であることも見逃せません。つまり、入試区分によって成長を促す「スイッチ」が異なるということ。もちろん現実として、それぞれに別々の対策を講じるほどのリソースがない大学も多いと思います。しかし、こうした入試区分別の分析は、どんな学生に向けて何を提供し、どう育てるのか、改革の優先順位付けに役立つはずで。

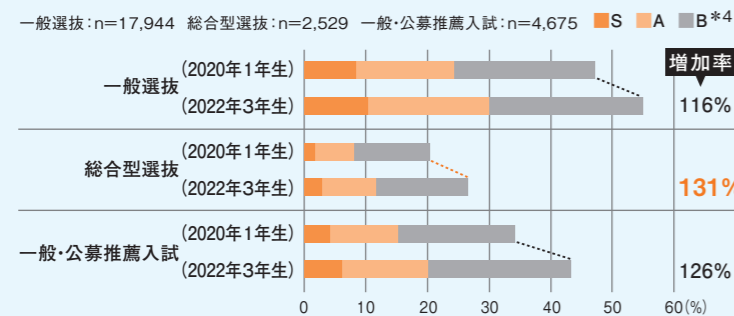
(株)ベネッセキャリア
まなぶとはたらくをつなぐ研究所
所長

小田桐 一弘

おだぎりかずひろ ●2007年(株)ベネッセコーポレーション入社。高校教育・高大接続領域の支援に携わった後、2018年より(株)ベネッセキャリアで大学の学修成果の可視化・教学マネジメント推進の支援を担当。



【図表7】入試区分別 入学後の思考力の推移(抜粋)



* (株)ベネッセキャリア まなぶとはたらくをつなぐ研究所「GPS全国データ3か年比較「コロナ禍の影響評価」レポート」(2024年)

【図表8】入試区分別 高い成長実感を感している学生の特徴

総合型選抜入学者	一般選抜、共通テスト利用入試入学者
<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム(入学から卒業までの科目配置や履修の体系)に満足している 自分の将来就きたい仕事、やりたいことに向けて準備をしている 科目間の関連やカリキュラムの全体像を理解できている 	<ul style="list-style-type: none"> 自学で、自分の将来に必要な学びを得られていると感じる 授業が、論理的・批判的思考力の伸長に役立っていると感じる 「ちょっとしたことでも相談できる教員がいると感じる

*2 「感情の制御」「立ち直りの速さ」「状況に応じ冷静に対応する」といった姿勢・態度 *3 「相手の立場に立とうとする」「他者と関わろうとする積極性」といった姿勢・態度
*4 思考力の受検結果に対する評価(S・A・B・C・D)のうち、上位の3段階

1、「一番多いのが、9〜12月末以外の「その他」。一般入試不合格者を狙って3月に設定する大学も増えているようだ。「時期によって受験生が総合型に求めるニーズは異なるので、試験日は毎年、見直している」(麗澤大学)。

受験生の学力を把握する方法は、学習成果(調査書、評定平均値等)、面接・討論等、書面(推薦書等)をセットで用いる大学が多い【図表9-1】。その他の方法で利用率が前年より高まっているのが、高大連携の成果などの「入学前教育」【資格・検定試験の成績、基礎学力などの「検査」や「活動歴・顕彰」】だ。【図表9-1】以降は、学力検査以外の具体的な選抜方法の利用率を学校推薦型と比較したものの、総合型の利用率が学校推薦型と比べて顕著に高いのは、活動報告書、レポート、プレゼン、探究学習の資料、模擬講義や事前課題だ。高校までの活動、大学の学びの理解度、それらをアウトプットする力の評価が重視されていることがわかる。資格・検定試験の成績、表彰歴も、学校推薦型より多く利用されている。多様な選抜方法、要件を課すだけでなく、どんな経験、スペックを持つ学生のパフォーマンスがよいか追跡調査を行い、入試の改善を図っている。

【図表6】総合型選抜の企画で重視していることや自学での取り組み

麗澤大学	創価大学	桜美林大学	京都芸術大学	崇城大学
「教員の思い(教学的)」+「学生募集に携わる人間(職員)の思い」+「実際に受験をする学生の思い」を混ぜ合わせると、全方位を意識した選抜となり、設計しやすい。また、毎年、入試方式について成果を確認しながらスクラップ&ビルド。入試のブラッシュアップを行う。	大事なことは、どのような学生を求めたいのか、またどのような能力を見たいのか。PASCAL入試の立ち上げについては、副学長やアドミッションセンター長が入る多面的評価委員会(現在は、入試改革検討ワーキンググループ)で徹底的な議論を行い、その後、学部長で構成される入試検討委員会、入試委員会に諮ったうえで、学部教授会でも意見を伺いながら入試を企画。予算を伴う部分については、理事会への説明と了解も必要。	代表的な取り組みをしている大学の選抜を研究すること。本学も文科省のAP事業の入試改革事例や慶應義塾大学のSFCの取り組みなどを分析した。文科省が毎年公開している「大学入学者選抜における好事例集」も参考になる。その中で導入イメージにマッチしている大学に対してヒアリング等を行い、設計、運営、諸課題などを確認しながら、自大学にフィットする内容に調整をしていくと、比較的、着手しやすい。	募集課題を起点にした設計が最も重要。例えば、合格者の入学率を上げたい、入学後の退学率を下げたいなど。本学では、課題やレポート等によって客観的な採点を実現。多角的・総合的な評価をすることで相互理解を深めることによってミスマッチの軽減を図っている。また、教員と職員が全面的に協働し、オープンキャンパスからの接続を行うことで、総合型選抜志願者が前年比132%で増加している。	高校時代の学びと入学後の学生の成長をいかにリンクさせるかという視点を重視している。本学では、学長の「教員の研究テーマに学生を寄せるのではなく、学生がやりたいことに教員が寄り添う。学生の心に火をつけ、ハイレベル人材を育成する」の方針のもと、入試課と探究支援を担う教員中心のワーキンググループと連携しながら企画。総合型選抜で入学した学生の成長を追跡可視化する取り組みを行っている。

*取材を基にBetween編集部にてまとめ

Q: 「学力の低い学生が入る」との反対への対応は?

A: 入学後のパフォーマンスについて入試方式別に検証を。

入試方式による学力差が本当にあるのか、あるならその差は何なのか、学生のパフォーマンスを比較して示したい。総合型が、多面的な能力の「伸びしろ」を見込んで選抜する入試であることを考えれば、高校までの教科学力だけではなく、「自学が育てようとしている力」について、入学時だけではなく「高学年時にどこまで伸びたか」も検証すべきだろう。可視化した学修成果を入試方式別に分析してみよう。

データを持つていなければ、持っている部署と連携する必要はある。学内にそのようなデータが存在しなければ、予算を取り、調査をするところから始めたい。「一般選抜の難易度と問題作成時の想定平均点と受験者の得点状況、選抜ごとの入学者のGPAなどを分析し、教職員に丁寧に開示したうえで議論をしては」(桜美林大学)。

学内の反対者が学生募集市場の変化を理解していないなら、市場データに基づく説明も不可欠だ。私立大学の場合、¹入学定員が現在約50万人、²2040年度の私立

大学入学者数の予測が32万人台という状況を前提とすると、多くの私立大学にとっては、名称こそ「選抜」であれ、実際には高校生を自学の受験生、学生へと育てて受け入れる形に転換せざるを得ない。育成にあたっては、入学時の学力だけでなく、学ぶ姿勢や意欲も大切だ。「入試を通して学科と受験生が一定期間、コミュニケーションを取ることで、入学後の指導が大幅にスムーズになる」(麗澤大学)。「知識・技能を土台にして思考力や主体性等を獲得するという成長モデルより、主体性等の意欲を土台に、知識・技能や思考力を獲得する成長モデルのほうが、多くの私立大学にとって納得感が大きいはずだ」(桜美林大学)。

Q: 総合型の企画の立て方のコツは?

A: 実現したいことを明確に。

各大学に入試設計のコツを聞いた【図表6】。どの大学も起点とするのは、目的や方針だ。「探究学習が話題だから探究型の入試をつくろうと、何となく設計するのは悪手。教職員の『こういう学生が欲しい』『受験生の『この力を生かしたい』という思いを根底に設計すべき』(麗澤大学)。京都芸術

大学も同様で、入学後のミスマッチ防止を重要視しているという。

立案は誰が担うべきか。創価大学はPASCAL入試の企画にあたり、副学長やアドミッションセンター長が入る多面的評価委員会(現・入試改革検討ワーキンググループ)を設置。同委員会が学部の意見を採り入れながら設計した。執行部の方針のもと、入試課と教員が具体案を企画したのは崇城大学。各学科代表と高校への探究支援に携わる教員とのワーキンググループが中心となった。内容の設計において桜美林大学は、先行大学の選抜内容の研究を勧める。公開情報の分析に加え、ヒアリングも行っているという。

入試の名称も悩むところだ。長く高校で教鞭をとっていた崇城大学入試広報部長の山本氏は、「島根大学の『へるん入試』のように、強いインパクトと内容面の浸透を両立した入試もあるが、一般論としては高校教員が理解しやすく、入試の内容がわかるものが、高校にとっては望ましい」と語る。

今後、総合型選抜を拡充するのであれば、実態を把握しておきたい【P.20図表】。まず試験日。学力検査を課さない総合型の場合、事実上、日程の制約がないため試験日はばらけているが【図表9-1

*1 文部科学省「学校基本統計」、私学事業団「令和4(2022)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」より

【図表10】総合型選抜のパターン例

パターン	型の種別	特徴	入試の例
探究学習評価型	実績・プロセス評価型	探究活動の成果やプロセスから得たものを評価する	大分大学(経済)「総合型選抜<課題探究>」/茨城大学(理)「総合型選抜」/桜美林大学「探究入試Spiral」/工学院大学「探究成果活用型選抜」/東北福祉大学「総合型選抜 探究型」/関西学院大学「総合型選抜 探究評価型入試」/国際基督教大学「総合型選抜 理数探究型」/東京工科大学(工・応用生物・コンピュータサイエンス・デザイン)「総合型選抜 探究成果発表入試」等
	高大接続型	大学と連携した探究活動の成果を評価する	金沢大学「KUGS特別入試」/東京都立大学「総合型選抜 セミナール入試」/群馬医療福祉大学「総合型選抜 授業体験型」/関西福祉大学(看護)「特色選抜 看護探究型」/崇城大学「探究活動プログレス選抜」等
	資質能力評価型	探究型の資質や能力を評価する	島根大学「へるん入試」/奈良女子大学「探究力入試「Q」」/京都市大学「総合型選抜 学際探究入試(理工系)」/立命館アジア太平洋大学「総合評価方式・探究型～ロジカル・フラワー・チャート型～」/静岡産業大学(経営)「総合型選抜 探究活用入試(プレゼン型)」/西南学院大学(外国語・経済・国際文化)「総合型選抜 学びと探究型」等
学力評価型	学力検査型	共通テストや大学独自の学力検査、検定試験利用	多くの国公立大学が共通テストを課す。私立大学でも関西エリアのほか、他エリアでも実施校は拡大傾向にある
	学習証明型	大学提供の入学後に必要な基礎学力の学習プログラムを受講・修了	東洋大学「自己推薦入試(学習証明型)」(2025年度～) 等
意欲育成型		大学で学ぶ意欲や基礎学力を育成	東京家政学院大学「アサーティブ入試」(2025年度～) 等
教育体験型		自学ならではの特徴的な教育を体験し、それとの相性や適性を評価する	創価大学「総合型選抜 PASCAL入試(LTD方式)」/京都芸術大学「体験授業型入試」 等

*「探究学習評価型」についてはベネッセコーポレーション 教育情報センターによるもの。その他のパターンはBetween編集部にてまとめ

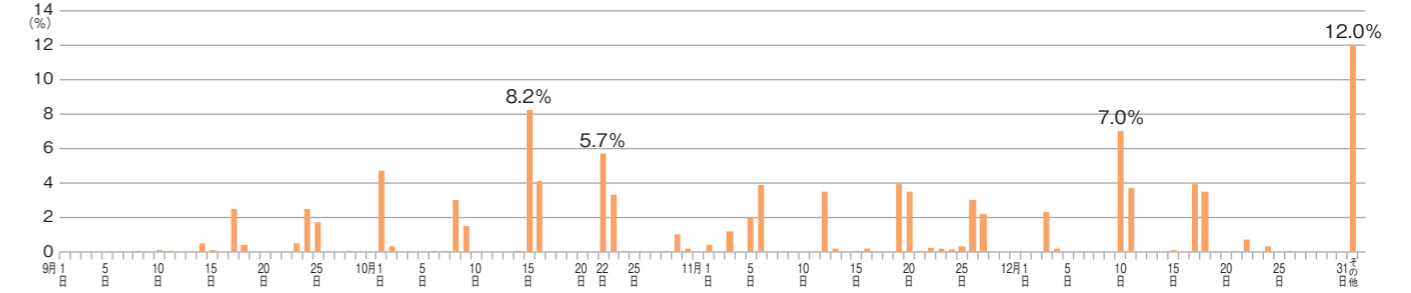
Q. 選抜方法にはどんなパターンがあるのか?

新課程での探究学習に着目した入試は、大きく3つに分けられる。まず、「実績・プロセス評価型」は探究の経験が求められる。その成果やプロセスを評価する。「高大接続型」は、大学が提供する指定のプログラムに参加する必要がある。「資質能力評価型」は、実績ではなく探究に必要な力を評価する。

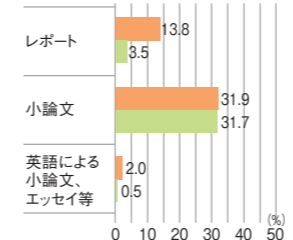
「学力評価型」は、共通テストを活用する「学力検査型」を中心に、教科学力を評価するものが主だったが、近年は「学習証明型」の東洋大学のように、入学後の教育に必要な基礎学力を育成、検査する方法が生まれている。

「意欲育成型」は、自己理解や進学動機形成、つまり進路学習自体を大学が支援する。自学に特徴的な教育があるのなら、入試前にそれを体験させ、自学の教育との相性を見る「教育体験型」のパターンもある。1年次から授業をリードする学生もおり、成績や満足度も高い(創価大学)と、入学者の質向上が期待できる。

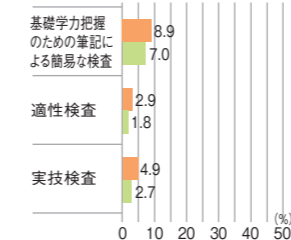
【図表9-1】総合型選抜の実態～個別選抜日程の状況



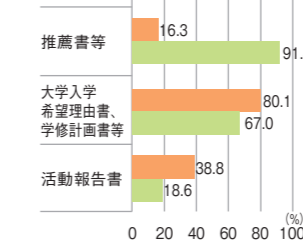
【図表9-5】小論文等の利用率



【図表9-4】検査の利用率

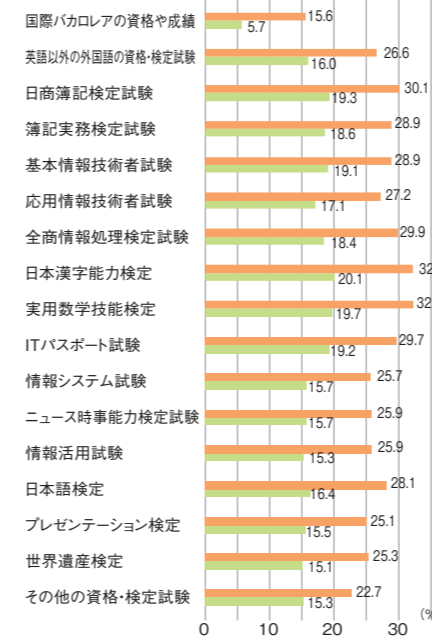


【図表9-3】書面の利用率

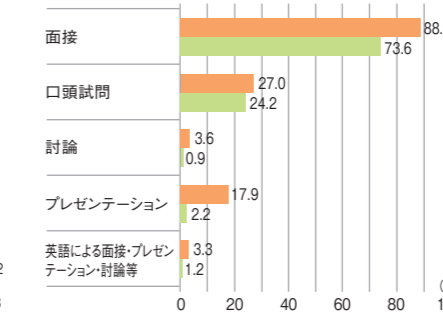


【図表9-3】～【図表9-10】
n=61,896選抜区分 ※国公立・大学計(大学・複数回答)
総合型選抜: n=12,736
学校推薦型選抜: n=18,881

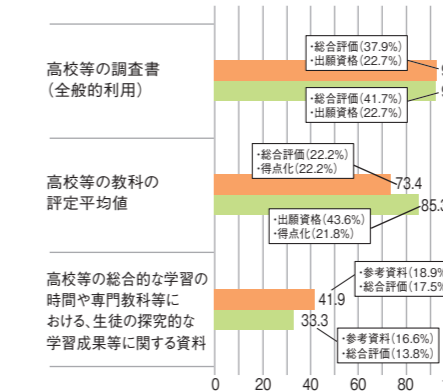
【図表9-9】資格・検定試験の成績の利用率



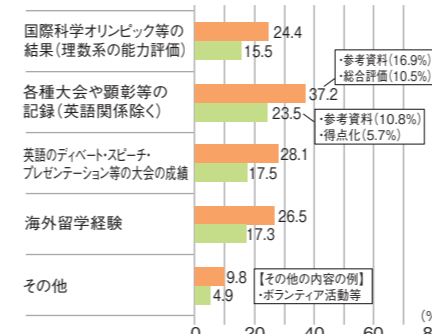
【図表9-6】面接・討論等の利用率



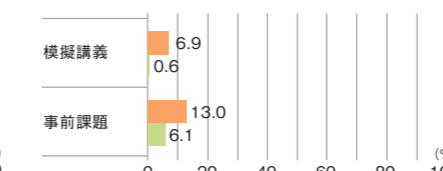
【図表9-7】高校等における学習成果の利用率



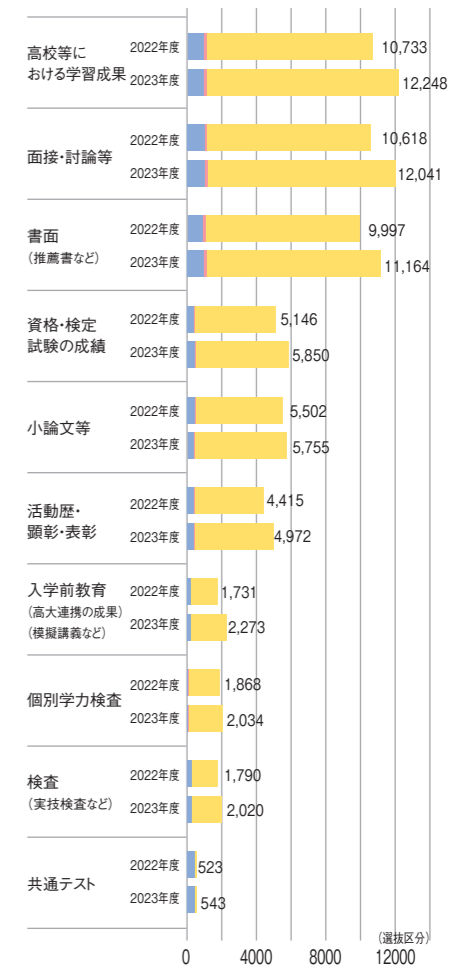
【図表9-10】活動歴・顕彰・表彰の利用率



【図表9-8】入学前教育の利用率



【図表9-2】学力把握措置の状況



【図表9-2】
■国立大学 2022年度: n=1,048 2023年度: n=1,057
■公立大学 2022年度: n=157 2023年度: n=167
■私立大学 2022年度: n=10,316 2023年度: n=11,512
調査対象
2022年度: n=11,521選抜区分
2023年度: n=12,736選抜区分
※国公立・大学計

*令和5年度文部科学省委託事業「大学入学者選抜の実態の把握及び分析等に関する調査研究」(株)リベルタス・コンサルティング

成果の出る総合型選抜のコツ②

育て続ける学修者本位の入学前教育のしくみ

入学前教育を巡る、大学と入学予定者のギャップ

入学前教育の多くは、合格後から入学までの空白期間を埋めることを目的に実施されてきました。今ではその考えは通用なくなってきたと感じます。年内入試の拡大や入試方式の多様化が進み、すでに多様な学生が入学している大学も多いでしょう。入試方式間の学力差が広がり、一律の指導が困難になっている大学もあるようです。こうした状況下で、卒業時に全学生に一定の質を保証するためには、入学前と入学後の教育を切り離さず、高校生を志望者に、志望者を入学者に、入学者を自学の教育で成長する学修者にと、シームレスに育成していく視点が必要ではないでしょうか。

入学前教育を連続性のある教育のひとつとして機能させるために、3つの観点から点検をすることをお勧めします。①目的は明確に定められているか。入学後の教育とのつながりを踏まえ、入学者をどういう状態にするのか。取り組んで欲しいものが多い場合、目的に照らして優先順位を検討する必要があるでしょう。②入学者本人が自分のための学びだと思えるものか。高校の学習範囲の補填として課される入学前教育は、大学側の視点では必要なものですが、受ける側からすれば「強制的な復習」で、入学後の学びとのつながりが見えにくいものです。「これまでの復習」ではなく、入学後の学びにつながる「これからの学びの準備」として、自身の成長や目標の実現に役立つと感じられるものであることが重要です。③入学後の指導に生かせるデータが得られるか。入学者の傾向をいち早く把握できれば、連続性のある教育の実現につながります。

個人差への対応の「しくみ」と学びを自分事にする「しかけ」

入学前の段階では個別の指導は難しく、入学前教育は一律の課題を課するのが一般的です。しかし、入学者が多様になればなるほど、入学者間の学力差が拡大する傾向があります。入学者本人が自分で学修に必要な能力基準を理解し、不足する力を自主的に補うことができればよいのですが、なかなかそうはいきません。そこで、注目されるのは、AIの活用です。個々の学習者に対して、目標に向

(株)進研アド
教育事業本部商品部
部長

村上 宙

むらかみちゆう ●2014年入社。大学の国際化やグローバル人材育成、教育改革支援に携わる。2024年より現職。



けて必要な次のステップを判断し、適切な課題を出すことで、学習者は自分に合った学習を進めることができます。AIの活用は、個人差という問題の一つの解決策になりえるでしょう。

ただし、AIはあくまで「しくみ」です。AI活用の有無にかかわらず大切なのは、入学者が自分事としてやり切るための「しかけ」です。入学者本人が自分のための学びだと思って取り組むことができる「しかけ」は別途用意する必要があります。

育て続けてくれる教育環境づくりで選ばれる大学へ

入学前教育の実施が当たり前になった今、それ自体は優位性になりづらいのでは、という声を伺います。しかし、年内入試合格者の大半は、大学の学びについていけるか不安を感じています。入学後につながる学びを提供し、入学前から育てる環境がある、となれば、受験生や保護者にとっての安心材料となります。入学前教育の見直しは、学生募集にも好影響をもたらすでしょう。そして、入学後も前向きに目標をもって学び続ける学生が増えれば、出口の成果も出やすく、結果的に自学の魅力を高めることにつながるはずで

す。入試選抜・入学前教育・入学後の教育を、それぞれ独立したのではなく、連続性をもった育成の枠組みに変えることで、入学者が目標を保ち続ける、学修者本位の教育が実現できるはずで

【図表14】入学前教育の課題チェック

↓ 一つでも当てはまったら見直しを

- 入学者の学力格差が拡大している
- 入学前教育に関して入試と教務、学部の連携がない
- 入学前教育から得られるデータを活用できていない
- 学習の不足を埋めることだけを目的に課題を出している
- 入学前教育の課題をやり切るかどうかは学生任せ

Q. 入学者の学力が不安

A. ポテンシャル重視の設計であれば、育成施策もセットで検討を。「*xx*」のような個性の学生をとれるが、入学者の学力に課題がある」との声はよく聞かれる。定員充足のために合格ラインを下げざるを得ない大学が多い実態もある。

入学時の学力よりも入学後のポテンシャルに期待する入試を設計する際は、育成施策もセットで企画する必要があります。既存の入試も、学力の3要素や入学後のパフォーマンスを確認したうえで、不足している資質能力があるなら育成施策を強化すべきだろう。共通テストや個別学力検査を課す大学は少数である一方で【P. 20 図表9】2、「学びに不安のある学生向けの学修支援は、多くの大学に行き届いている状況ではない【図表12】。各大学の学力担保策【図表13】の中で、麗澤大学に注目したい。同大学初の理系学部である工学部設置にあたり、文系の生徒を含む「工学に興味があるが、学力にやや不安がある」層を意識して総合型選抜を企画。数理系科目を個別支援する「Studio」、英語学習支援「iFloor」等のサポートをセットで打ち出し、初年度の募集に成功している。

【図表11】学内の協力体制構築や、業務効率化に向けた工夫例

麗澤大学	<ul style="list-style-type: none"> ●現状の入試科目や制度設計をきちんと整理し、組み合わせ、再設計したうえで、極力、現状の負荷を超えずに効果を出すよう検討を重ねることが大前提。後は職員が入試実施において効果的な対応ができるよう、事前に入試のシミュレーションを行い、必要な職員を適切に配置する準備を行う。 ●協力要請する各部署については、事前に各部署の状況や配慮すべき内容を把握し、過度な負担を軽減するための配慮を行う。 ●改善に向けた職員の意見や提案を積極的に採り入れる。 	創価大学	<ul style="list-style-type: none"> ●オンライン入試の実施。従来、大学で実施していたものをコロナ禍を機にオンラインに切り替えたところ、結果的に距離の制約がなくなり、地方や海外からの受験生が増加。グループワークの評価についても、オンラインで受験生全員の顔を見ながらできるようになった。 ●学生の入試への参画。PASCAL入試の準備育成プログラムにおいて、グループワークを有志の学部生がサポート。事務作業では大学院生のスタッフが活躍。 ●入試運営の負担は増えるが、学生が来なければ大学は立ち行かなくなるため、中小規模の大学では最優先事項だという認識を全学で共有し、協力体制をつくるのが重要。
桜美林大学	<ul style="list-style-type: none"> ●教職員の負担感や課題感をきちんと整理していくと、効率化できるポイントが見つかる。それらを一つひとつ解消することが、業務量や負担感の確実な軽減につながる。 ●専任職員の業務を「執行」「調整」「企画立案」に切り分け、単純な「執行」は外部や事業会社に委託。浮いた時間を「調整」「企画立案」業務に充てている。 	崇城大学	<ul style="list-style-type: none"> ●学生募集活動や入学試験業務については、全学一体となって教職協働で行うという意識が根づいている。各種ワーキンググループ、課長会、学科長会議などを通して情報共有し、共通理解のもと協力態勢を構築している。 ●高校生の探究支援については、大学が単独で行う支援活動だけでなく、桜美林大学のディスカバ！と連携するなど、他大学との協働によって効率化できる。

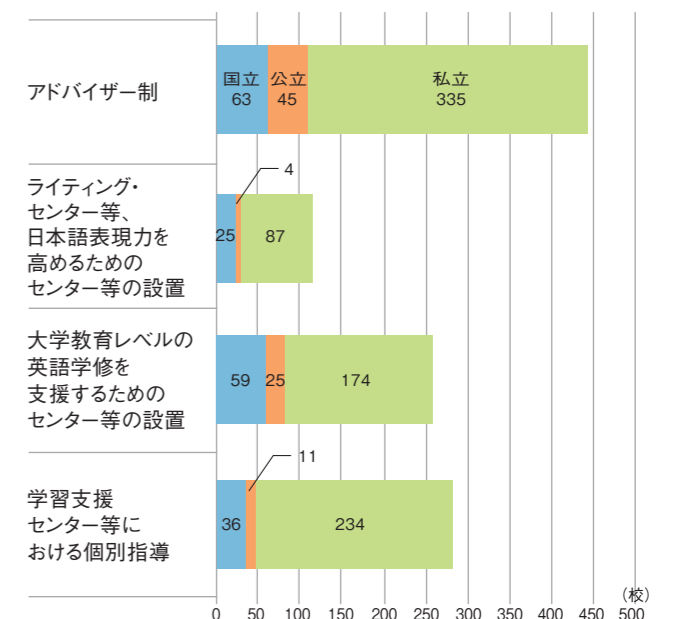
*取材を基にBetween編集部にてまとめ

【図表13】学力担保、大学教育の工夫例

創価大学	<ul style="list-style-type: none"> ●学生を入学後スムーズに大学教育に移行させるための工夫として、育成型の「PASCAL入試チャレンジプログラム」をオンラインで実施。入試本番と同じようにグループワークを行う「LTD体験」と、高校生の能力や経験をふまえて大学で学ぶ意味や志望学部等について考えを深める「キャリアプランニング」を主な柱とする。受験年(高校3年生になる春)の3月からスタートする。 ●合格者には入学前準備プログラムも実施。
麗澤大学	<ul style="list-style-type: none"> ●入学前教育に加え、入学後も教員による担任制、テストによるクラス分け、個別指導のしくみを用意(多国籍な教員が常駐する外国語の多機能自主学习フロア「iFloor」や、1対1で数理科目やプログラミングなどの学びを支援するコミュニティスペース「iStudio」の設置など)。
京都芸術大学	<ul style="list-style-type: none"> ●入学前の11月から丁寧に0年生プログラムを実施。「教養基礎課題」(国・英・数)、「表現基礎課題」(デッサン・色彩・自分を観察、表現)。スクーリングは2回実施。
崇城大学	<ul style="list-style-type: none"> ●入学前教育として、現在はトレーニングノート、スクーリングを実施。今後、中長期計画の一環として、「自学に合う教育+入学予定者一人ひとりに個別最適な学び」を提供する。 ●入学後は担任制、チューター制があり、面談を行うなど充実したサポート体制。

*取材を基にBetween編集部にてまとめ

【図表12】大学の学びに不安のある学生向けの学修支援制度の取り組み状況



*文部科学省「令和3年度の大学における教育内容等の改革状況について」

Q. 教職員の手間がかか
る。効率的にするには？

A. 日程統合、学生参画、他大学とのスキーム共有など【図表11】。麗澤大学は総合型だけで10種以上の方式があり、複数日程にわたって実施しているが、学校推薦型と併せて入試日程を綿密に設計。複数の試験を同日にまとめ、実施コストを下げている。創価大学は、育成プログラムの一部に有志学生を配置。教職員の負担軽減、指導する学生の成長、高校生の憧れ醸成を同時に果たしている。

注目は、崇城大学の高大接続事業。探究学習評価型の選抜につながる探究活動支援の一部に、桜美林大学の高校生育成プログラム「ディスカバ！」のしくみを採用している。桜美林大学が手がける、大学間スキーム共有事業の一環だ。「大学事務の構造は全大学ほぼ共通。優れた業務フォーマットを開発できたら、それを他大学と共同利用する取り組みがあつていい」と考え、事業化した。桜美林大学では入試業務にかかわらず、専任職員でなければできない業務と、他者でもできる業務とを分別。他者でもできる「執行」等の業務は、システムによる自動化や外注によって省力化している。

成果の出る総合型選抜のコツ③

高校の進路指導の変化に対応した高校広報3つのポイント

高校の進路指導の変化と大学の広報活動のズレ

高校支援を長年担当してきました。職務が大学支援に移ってから感じるのは、高校の実態と、大学の高校への広報活動のギャップです。年内入試の拡大により、多くの大学ではチャレンジ層からの合格者が増加していると思われます。この状況になってから高校現場では、偏差値上位大学を除き、大学選びの基準は、偏差値やグルーピングよりも、教育内容や環境など、多様化しています。一方で大学は、まだまだ偏差値やグルーピングを意識した広報活動を行っているように見えます。そもそも偏差値は一般選抜の指標です。年内入試において高校教員が見ているのは、入学後の成長が期待できる教育環境があるかどうか。偏差値だけでは語りきれない価値基準です。ですから、どの大学にも勝機があるのです。

進路指導も、高校教員が過去の経験から生徒にマッチするであろう大学を薦める「プッシュ型」から、生徒や保護者の意向をくみ取り、それに沿う大学や入試を薦める「コーディネート型」に変わってきています。大学選びの第一歩目は生徒が踏み出すので、生徒にとってわかりやすい教育や入試でなければ選ばれにくくなりました。大学としては、生徒向けと教員向けで情報を出し分けるべきでしょう。自学にアクセスしてきた生徒は、何らかの興味を持っているはずなので、その興味を深める情報を出す。一方で教員は、複数の大学を横並びで見て、生徒や保護者の希望に合う大学を薦めようと、優先順位をつけるための情報を求めています。生徒が目を向けにくい学費や留学制度の詳細などについて、他大学との違いを知らせると効果的です。これらの情報は、1回の訪問や広告出稿では伝えきれません。伝える方法や内容など、広報の全体設計が必要です。

大学本位ではなく高校本位の広報活動を

現在の高校の実態に即した、広報のポイントを3つ挙げます。
 ①高校の実態を知って計画を立てる。例えばオープンキャンパス開催日が模試の日程とかぶっている、三者面談の時期を考慮していないなど、学校行事をふまえていない広報活動になっていません

(株)進研アド
 マナビジョン事業本部 副事業本部長
徳岡 卓也

とくおかたくや ●2005年(株)ベネッセコーポレーション入社。全国5拠点を巡回し、アシスタントデータを活用した進路指導コンサルタントを担当、学校事業責任者、支社長として学校を中心とした地域の教育力向上支援に携わる。2023年より(株)進研アドにて高大連携をテーマに活動、2024年より現職。



か? イベントの集客に波があるようなら、ターゲット高校の情報を調べて計画の見直しを。

②高校側のニーズを知る。働き方改革に取り組むぐらいうち多忙を極める高校教員に時間をもらうのであれば、できるだけアポイントをとり、提供すると喜ばれる情報は何かを聞いて訪問に臨むなど、自学の募集情報だけを伝えるような訪問は避けたいところです。自学への入学実績のある高校であれば、進学後の学生の様子に高いニーズがあります。既卒生を受け入れた際に入学後の生徒の努力を出身高校に報告し、信頼を得ている大学受験予備校もあります。

③上位レイヤーがマネジメントする。高校教員の関心が高い情報に、入学者の成長の様子や、大学卒業後の活躍の様子などがあります。大学内の管轄で言えば、それぞれ教務課、キャリアセンターになりますが、高校訪問に赴く入試担当の教職員が、「私は専門外なので知りません」では、高校の関心に答えられません。縦割り組織の弊害です。執行部、学長室など、各組織をまたいで指示を出せるレイヤーがマネジメントをすべきでしょう。

入試広報というと、「高校生」が主たる対象と考えられがちですが、高校教員に推奨してもらえる大学や入試にするには、「高校教員」への広報が重要です。対高校の広報の好転は、高校の教育活動に関心を寄せ、理解を深めてこそ実現します。【図表18】に広報の課題をまとめました。参考にさせていただきます。

【図表18】高校向け広報活動の課題チェック

↓一つでも当てはまったら見直しを

- 高校訪問で提供するネタがHPや大学案内の情報と同一
- 高校訪問で卒業生の入学後の状況を報告していない
- 高校の進路行事予定を基に広報活動の予定を立てていない
- 高校の教育課題や進路指導についてよく理解していない
- 広報活動について入試広報部署だけで完結し、他部署との連携が弱い

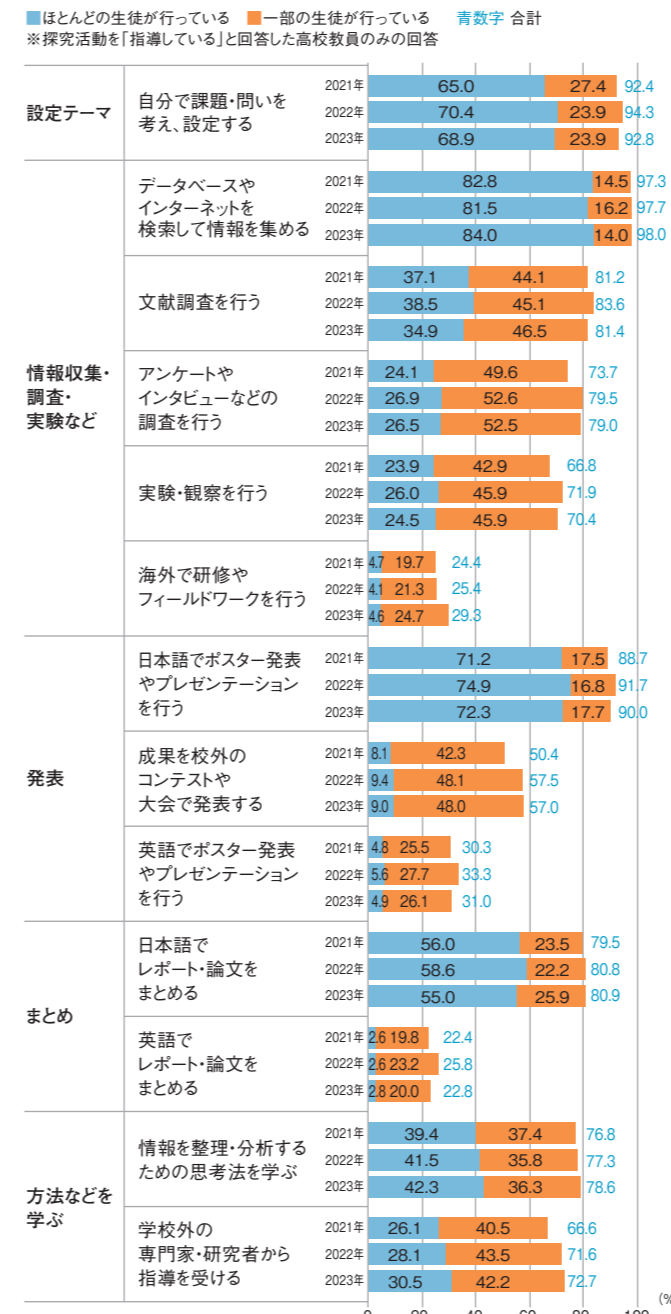
た。崇城大学のようにSSH校を中心としたコンソーシアムと連携協定を結び、高校・大学・教育委員会の三位一体で探究支援を行う方法や、京都芸術大学のように、全国の教員向けに探究学習指導の研修会を開催する方法もある【図表15】。

高校への調査によると、探究学習について学外からの支援を受ける高校は増えている【図表16】。探究活動を重視する新課程への移行に伴って拡大が見込める市場となり、活動支援や入試への導入を行う大学もさらに増えそう。なお、探究学習のテーマ、レベル、取り組みの重点は、高校のタイプによって異なる傾向がある【図表17】。支援する場合は、相手高校の探究学習の課題を知り、ニーズに合わせて効果を出したい。

総合型選抜拡充の課題

- ①学内での合意形成
 社会変化、市場変化、自学の教育成果についてデータやエビデンスを学内に開示し、全学で合意形成を行う。大学存続をかけた教育改革のチャンスにしたい
- ②特色ある教育とそれにひもづく入試
 国公立大学や私立の上位大学も年内入試を拡大する中、特色がないと一般選抜同様、偏差値に縛られる入試になりかねない
- ③人材育成を共にする高校の選定
 広報を強化したり接続事業に取り組んだりする高校を選ぶ。互いの人材育成像のマッチングを図る

【図表16】高校生が取り組む探究活動の内容(経年比較)



*【図表16、17】ベネッセ教育総合研究所「小中高校の学習指導に関する調査2023ダイジェスト版」(2024年)

【図表15】高校や高校生向けの広報取り組み例

麗澤大学	オープンキャンパスは教員や学生による個別相談を中心に。ワークショップも予約不要で開催。高校生に芽生えた自学への関心を消させないように、気軽に参加できる場になっている。また、年度内前期にWeb広報の予算を集中させて認知度を高め、閲覧者が多い高校を重点訪問先としている。
創価大学	高校訪問体制を強化し、高校生育成制度、総合型選抜、入学後の教育の一貫性を説き、関心を持つ教員を増やしつつある。2023年度から、高校教員と共に開発した探究活動支援プログラムを開始。研修を受けた学生が生徒をサポートする。
京都芸術大学	芸術学を活用して高校の指導に協力し、認知度を高めている。アート思考、デザイン思考を切り口にした、高校教員向けの探究学習研修会には全国から100人以上が集まる。また、芸術鑑賞を通じてコミュニケーションや協働的な学びを経験する探究活動支援を、年間100校以上で行っている。
崇城大学	入学者選抜の検証を高校教員とともに検討。よい点だけでなく、課題とその改善過程も知ってもらい、自学の教育姿勢を理解してもらっている。また、地域の複数の大学、高校を集めたコンソーシアムと連携し、探究活動を効率的に支援。参加大学入学者の入学後の成長を調査し、参加高校に報告。
戸板女子短期大学	教職員ではなく、現役学生が「里帰り高校訪問」を行っている。先輩学生として生徒に説明を行うだけでなく、高校教員への説明役も担う。現場にいる学生ならではの情報を提供するほか、学生がこの役目を務めること自体が、入学後の成長の証明として機能。他大学との差別化にもなっている。

*取材を基にBetween編集部にてまとめ

【図表17】高校のタイプ別探究活動のテーマ(複数回答)(%)

	進路多様校	中堅校B	中堅校A	進学校B	進学校A
社会や地域の課題解決に関すること	59.8	56.4	63.5	66.7	57.8
職業や自己の進路に関すること	58.8	60.6	61.4	53.2	44.2
国際的(グローバル)な社会課題の解決に関すること	11.6	22.0	27.4	32.0	39.7
自然科学や数学的事象に関すること	14.6	21.2	18.8	26.8	41.8
文学・言語・歴史・文化・芸術に関すること	16.6	21.2	23.5	27.3	35.2
企業の事業課題に関すること	13.3	12.3	11.2	14.8	13.8
その他	4.7	4.7	4.0	3.4	3.8

高校タイプは大学進学率による。進路多様校:30%未満、中堅校B:30~50%未満、中堅校A:50~70%未満、進学校B:70~90%未満、進学校A:90%以上

Q・高大接続事業は効果的か?

A 合う高校を選び、ニーズをくむこと。入試や教育と連続性があれば、接続事業は効果的。

高校生の大学選びに高校教員が関与する度合いは、特に年内入試で大きい。総合型選抜の広報において高校への働きかけは不可欠だ。高校や教員ごとに勧めたい大学、入試像は異なるため【P.12】13参照)、方針が合う高校を選ぶ、あるいは継続的に交流して相手の意向をつかむ必要があるだろう。

探究学習支援をはじめとした高大接続事業は、高校での人材育成を協働して支える形になるため、高校の協力を得やすく、自学の魅力を接続事業での体験をもって伝えやすい。意欲のある生徒を自学で引き継ぎ育てたいのなら、入試へとつなげる設計がポイントだ。探究学習の体験が生きる入試、入試の経験が生きる入学後の教育を留意したい。

一方、大学側のリソースには限りがあり、無償の支援をあらゆる高校に行うことは難しい。近年は、高校と結び、協定を結ぶことによって対象となる高校を限定して手厚い支援を行う「準付属校化」を行う大学も増えてき